

50 社会的行動障害に対する地域社会参加を目標とした連続的支援②

(攻撃的行動等の誘引や原因の調査による支援方法の検討)

川嶋陽平、西村 茂、工藤裕司、白浜 一、加覧博徳、高橋文孝、植木朋子、菅原由貴子、安部恵理子、伊藤美樹、大久保絵美、佐々木直美、浦上裕子

1 はじめに

事例のAさんは、社会的行動障害を主な症状とする高次脳機能障害があり、訓練開始当初は大声や攻撃的行動等、情動コントロールの障害のため訓練プログラムに参加できない状況であった。

しかし、攻撃的行動の背景や本人の求めていることを細かな言動から推察した対処方法を選択することで、感情的安定を図れることがわかった。また、家族や近隣住民、地元のサービス提供事業者等を含めた地域支援者会議にて、支援方法の統一や修正を繰り返すことで安定した訓練参加につながり、現在は代償手段の活用と訓練終了後の日中活動サービス利用の可能性について検討している。

2 事例プロフィール

氏名：Aさん 30代 女性、障害状況：びまん性軸索損傷による高次脳機能障害（社会的行動障害：情動コントロールの障害、意欲・発動性の低下、対人関係の障害／記憶障害：前向・逆向健忘／注意障害／遂行機能障害）及び視覚障害（両視野狭窄）

受傷後、4年経過 ※定型的検査実施困難のため神経心理学的検査なし。

利用形態：自立訓練（生活訓練）を通所にて週3回利用。サービス提供予定期間：13ヶ月

3 支援方針

訓練場面で生じる本人の社会的行動障害を記録し、どのようなきっかけで生ずるかを整理した結果、自分が今いる状況の理解不足や、どう行動すべきかわからないため攻撃的行動等が誘発されるとの仮説をたてた。（図1参照 坂爪一幸1998, 2000より引用）そこで、本人の言動の背景を理解し、周囲の環境との関係性を整理することで社会的行動障害の改善を目指した。

4 経過（表1参照）

初期アセスメント期（1月～3月）：集団訓練を中心としたプログラムに参加するが、大声を上げる、ドアを乱暴に開閉する、頻回にトイレに行く等の行動が多く、また職員・ヘルパー等への攻撃的行動もみられた。これらは記憶・遂行機能障害等に起因する状況理解と行動ができない過緊張状態からの解消・逃避行動と考え、場に慣れること等を優先に支援を模索した。

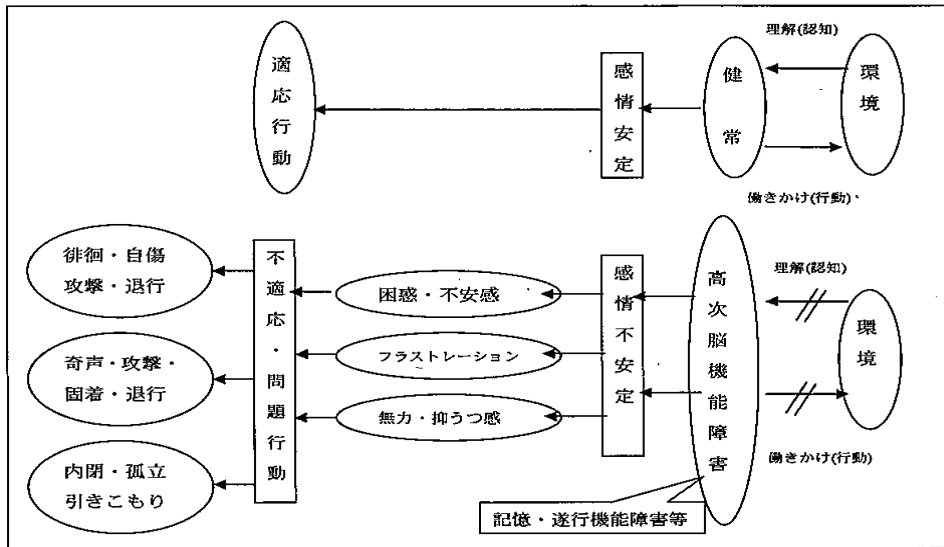
中期1モニタリング期（4月～6月）：場に慣れる方法として、対応職員を限定し、午前中に面接を中心とした個別対応を行った上で、その後に集団訓練へ参加してもらう。本人の興味・関心のある調理（ティータイム）を定型化することで、訓練場面への不安感が解消したためか攻撃的行動が減少した。

中期2モニタリング期（7月～9月）：個別対応を継続しながら、訓練時間を延長。家族からの「出来事メール」を題材に、日時の確認、今日のティータイム内容の確認、準備等、代償手段の活用訓練を開始。支援方法の統一により通所日以外の日にも、ヘルパーを利用した外出も実現した。

5 今後の課題

初期アセスメント期は攻撃的行動が顕著であったため、サービス提供事業者から対応困難による解約の申し出が何度かあったが、訪問相談や地域支援者会議開催等調整を図ることで、地域でのサービス提供は維持されている。しかし、地域の支援者からは「継続した実生活の中で、誰が現実問題としてどのように支援していくのか」等の切なる訴えが上げられている。今後も安定した生活環境を継続するため、訓練結果で得られた情報等を引き継いでいける地域の支援体制確立が急務である。

図 1



環境との相互作用の困難さと感情の不安定と問題行動の関係 (坂爪 1998, 2000) より引用

表 1

	本人の言動 (訓練・面接時、定期受診時)	評価 (文脈の調査)
初期 1月～ 3月	①「自分ではわかんねーんだよ。」「嫌でも、ここに来なきゃいけないんだよ。」「やられて言われているからやってるよ。」 ②「自分からはやっちゃいけないんだよ。」 ③「飯食って、とりあえず生きていくなきゃいけないんだよ。」 ④「酸素が薄い。ここはだめだ。」 ⑤【行動】ドアやロッカーを勢いよく開閉し、大きな音を立てる。 ⑥【行動】行動の停止 (目を閉じ、床に寝転ぶ) がある。 ⑦【行動】通所時、電車の中で大声を上げる。 ⑧【行動】ヘルパー、職員に攻撃的行動がある。	①状況理解ができない中、周囲から訓練を強く進められている可能性がある。「困惑・不安感」が強い状態と推察。 ②③適切な行動がとれない若しくは何もさせてもらえない? 事についての「無力・抑うつ感」が感じられる。 ④⑤⑥⑦⑧過緊張状態による解消・逃避行動と推察。
中期Ⅰ 4月～ 6月	①「来てるってことは悪くはないんだろうな。後は知らねえ。」(問診時) ②「(A職員の) 出身どこだったっけ? 大阪、奈良、三重かな?」 ③「父親の仕事は〇〇で、弟は〇〇をしている。集中力が必要な仕事だから、家ではあまり話さないようにしている。」 ④「私、憶えてられないから。人の名前憶えるのは昔から苦手だけど。」 ⑤【行動】職員への攻撃的行動は無くなる。ヘルパーへの攻撃的行動は減少。 ⑥【行動】大声やドア等を勢いよく開閉することは減少している。その分咳払いが増えた。	①少しずつ訓練や環境に慣れ、受け入れつつある状況と推察 ②③人や環境への関心が持ってきている。また、自ら家族の事を話すことで、家庭状況の理解を欲していると推察。 ④記憶障害を少しずつ意識し、他者への説明や理解を求めていると推察。 ⑤⑥環境になれることで、過緊張状態による解消・逃避行動が減少及び変化していると推察。
中期Ⅱ 7月～ 9月	①「来てるってことは、いいんだろうな。」(問診時) ②「一人ではだめだけど、外には行きたい。」 ③「ビーズ細工や編み物等の作業は好き。昔よくやった。」 ④【行動】休憩を挟みながらも小集団での2時間の園芸作業が可能となる。 ⑤【行動】スケジュール帳使用時、夫との余暇外出等にふれ「悪いなーと思うより、楽しんで感謝すること。」との記載あり。 ⑥【行動】自宅で父親に行事内容を話す。(野外訓練でパーベキューをして楽しかった等。)	①口調は強いものの肯定的な発言があり、訓練に部分的ではあるが適応し始めている様子。 ②③自ら欲求を相手に伝えていることで「フラストレーション」解消にむけ行動し始めようとしている様子。 ④解りやすい作業環境や少人数での関係性の中では一定時間の持続力がある。 ⑤⑥快活動等は印象深い様子。また、少しずつではあるが、周囲に対する障害の影響について意識し始めている。

現状に応じた
具体的支援
・家族面接
・訪問相談
・プログラム調整
・訓練環境調整
・家庭環境調整
・地域支援会議
等